

【山崎名誉主宰の俳句】

無 頼

山崎 聰

切株に陽のこえ春のやさしい野
いつかくる別れのとぎのための春
春の夕焼閑居のあとは蟄居して
韃靼はさら咲くころああ無頼
奮い立つこともなくなり春が逝く
黄金週間足早に過ぎ一人なり
夏が近しまいにち同じことをして
桃さくらら散ってしまえばジユデイの日
八十八夜神さま不意に降りてきて

駒志津子さん

葉ざくらの一本道を天国に